

プロジェクト報告

離床がミルミル進む!看護と「ながら離床」

離床推進ファシリテーター看護グループ 河合佑亮 大島成司

「ながら離床」とは 一定義と概念

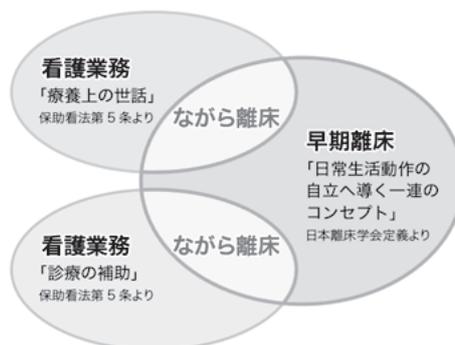
観察・測定」「身体の清潔」「食事介助」・・・

日々の多忙な業務の中で見逃されがちですが、看護業務の中に、光り輝く離床の原石が隠れています。私たちは、看護業務し「ながら離床」を提案します。

私たち離床推進ファシリテーターは、ながら離床を「看護業務」と「早期離床」がオーバーラップする範囲と考え、次の通り定義します。

ながら離床とは『患者さんの日常生活動作の自立を目標のひとつに、看護師が意識的に実践する療養上の世話または診療の補助』である。

看護師が「ながら離床」として、24時間継続して早期離床を支援することは、患者さんの機能的回復の促進に大きく寄与すると考えます。また、看護師の役割は、多職種連携や家族ケアなど多岐にわたります。看護師が調整役となり、多職種と連携して離床を支援することや、家族と一緒に離床を支援すること等も有効かつ重要です。



「ながら離床」とは 一実例集

食事



なるべく座位で食事をしてもらおう

整容



起きた姿勢で、足浴やひげ剃りを行う

体位変換



体位変換時にヒップアップができるようであれば促す

リハビリ



リハビリ室でのリハ内容を、病棟でも実施できるように支援する

看護ファシリテーターでは、様々な「ながら離床」を今後も提案していきます。日本離床学会ホームページ、学会プロジェクトページをご覧ください。